レギュレーション

参加人数：２～４名　ＧＭ１名
特殊ルール：なし
世界観：現代日本、ちょっとだけ治安悪めな街
タグ：首を突っ込む型、都市伝説、走り屋、動画配信グループ

キャラクターの設定

シナリオの舞台

現代日本の地方都市が舞台となります。

程よく高層ビル群や住宅街、商業施設、それから各地域を結ぶ高速道路網が整備されている暮らしやすい街です。

キャラクターたちはこの街に住んでいたり、近隣の街から通っている設定としてください。

参加するキャラクターについて

このシナリオに参加するキャラクターは、怪異の存在を知っている人間か、怪異そのものである必要があります。

また、全員が「スプーキースクーパー」という動画配信グループのメンバーや、その協力者となります。

プレイヤー向けあらすじ

あらゆる怪事件のトリックを見抜き、怪現象を解き明かしていく動画配信グループ「スプーキースクーパー」。

しかし、その正体は「怪事件は実はトリックだったということにして、【怪異】たちの平穏な生活を守る秘密結社」なのである。

今回の事件は「交通事故を引き起こす心霊現象」――通称、〈ハイウェイリリィ〉。

動画サイトに誤解と人違いでその名がさらされてしまったために、〈ハイウェイリリィ〉本人はたいへん困っているらしい。

【怪異】の平和な日常を守るため、事件の真相を解き明かし、すべてを「嘘」で覆い隠すのだ！

スプーキースクーパー、出動！

登場ＮＰＣ

〈ハイウェイリリィ〉

「私はまだ、ババア未満なんだ」

年齢：外見は１０代後半　越境比率：怪異寄り

一人称：私　二人称：あんた　三人称：あいつ、連中

高速道路を疾走し速度を求める怪異、ダッシュババア。

その二代目にあたる見習いの怪異少女。

隠居した先代を超えるために、日々高速道路に出没するが、今回は事故を誘発する別の怪異によって冤罪被害にあっている。

〈ホラ山ホラー〉

「クルーの皆さんこんにちは！　プキクパキッズのホラ山です！」

年齢：１９歳　越境比率：人間寄り

一人称：それがし　二人称：あなた　三人称：彼、彼女

スプーキースクーパーに憧れて動画配信者になった青年。

「プキクパファン」を公言しており、何の才能か、偶然に本物の怪現象を撮影してしまうことがよくある。

〈走り屋のフシミ〉

「俺？　不死身のフシミ。覚えておけよな！」

年齢：２２歳　越境比率：人間寄り

一人称：俺　二人称：お前　三人称：やつ、あの野郎

隠れプキクパファンの走り屋。

おばあちゃんが霊媒師で、強い霊感があるが一般人。

〈先代ダッシュババア〉

「最速のその先、あいつなら見えるはずさ」

年齢：外見は８０～９０代　越境比率：怪異寄り

一人称：あたし　二人称：お前さん　三人称：あいつ、あいつら

〈ハイウェイリリィ〉の祖母にして師匠の先代最速の怪異。

現在は隠居して、クルマでのんびり峠を流している。

話の大まかな流れ

キャラクターのひとりが、今回の騒動の原因となる〈埋立地の亡霊〉による怪奇現象に遭遇します。

無事に生き延びたあと、スプーキースクーパーの他のクルーと合流し、前述の怪奇現象が〈ハイウェイリリィ〉という怪異のせいだとする動画が公開、拡散されていることを知ります。

スプーキースクーパーの面々は、事件を解決し、動画が作り物であるという捏造情報を広めるべく行動を開始します。

その後、〈ハイウェイリリィ〉や地元の走り屋からの情報収集、高速道路を通す際に埋め立てられた沼地と、そこで命を落とした者たちの情報を集めていきます。

ダッシュババアとは？

峠や高速道路を異常な速度で駆け抜ける老婆、という全国各地で類話の見られる怪談話。

超高速で走る１００キロババア、長距離跳躍しながら追ってくるジャンピングババアなど、地域によって亜種や異称が多々ある。

無論、本作においては怪異として実在しており、最速を求めて日々疾走し続けていたが、現在は引退し、後進の育成に励んでいる。

〈ハイウェイリリィ〉は直系の弟子である。

オープニング

1．死ねばよかったのに

◇解説

【生まれ】が【人間】であるか、【怪異】の中でも人間社会にどっぷりと浸かっているキャラクターが、高速道路で怪奇現象に遭遇する場面が最初に描かれます。

できればクルマやバイクの運転免許を持っているキャラクターが望ましいですが、高速バスに乗っていたとか、タクシーに乗っていたということにしても大丈夫です。

◇描写

――それは深夜、高速道路上でのことでした。

不自然なほどに他のクルマと出会うことのない夜です。

規則的に並んだ街灯と、遠いビルの明かりを縫うように道を進んでいたとき、不意に嫌な感覚が背筋を駆け抜けました。

直後、クルマのすぐ目の前に白い人影が飛び出してきたのです。

慌ててブレーキを踏み、ハンドルを切ります。

幸い、事故は起こしませんでしたが、奇妙なことに先ほど見たはずの白い人影は、どこにもいませんでした。

いったい何が起きたのか、冷や汗を拭いながら再び走り出したそのとき、耳元でこんな声が聞こえてきました。

「死ねばよかったのに」

慌てて声の方――後部座席を見ても、そこには誰もいません。

のちほど、座席を調べてみたところ、なぜかそこだけ、ぐっしょりと水に濡れていました。

まるで、ずぶ濡れの誰かがそこに座っていたかのように……。

そのキャラクターは無事に自宅――あるいはスプーキースクーパーの事務所へ帰ることができますが、結局、この日の怪奇現象については真相がわからないままとなります。

［影響：プレイヤー数が２名以下の場合、［シーンプレイヤー］のキャラクターは【怪異ダイス】を１個獲得する］

2．事務所にて

◇解説

先程の謎の怪奇現象の直後、あるいは数日後の、スプーキースクーパー事務所での場面です。

クルマを運転していたキャラクターだけでなく、すべてのキャラクターが事務所にいる状態からスタートします。

キャラクター間の雑談、特に先日の怪奇現象についての会話などの時間をとったあとに、ＧＭは以下の描写を読み上げてください。

◇描写１

不意に、事務所の隅に置かれたタブレットから、けたたましい通知音が響きます。

これは各種動画サイトやＳＮＳで、怪異にかかわる本物の怪奇現象が情報拡散された際に鳴る、緊急事態を告げるものです。

どこかで「怪異の存在が広く知られてしまいそうな事態が発生した」ということを意味しています。

キャラクターのうち、誰かがタブレットを操作すれば、以下のような動画がアップロードされたことがわかります。

◇動画の内容

動画が始まると、見覚えのある青年が映ります。
「すべてのホラーを解き明かせ！　どうも皆さん、プキクパキッズあらため、ホラーハンターのホラ山ホラーです！」

ホラ山と名乗ったのは、スプーキースクーパーファンを公言している新進気鋭の動画配信者、ホラ山ホラー君でした。
彼の言う「プキクパキッズ」とは、スプーキースクーパーの真似をして心霊スポットに通い詰める、熱心なファンたちのことです。

彼自身はごく普通の人間で、スプーキースクーパーが怪異の日常を守る秘密結社であることだとか、トリックということにして隠蔽している事件の数々が、実は本当の怪奇現象であるだとか、そういった事情をまったく知りません。
本当にごく普通の一般人です。
そんなホラ山は興奮した様子で言葉を続けます。

「それがし、これまでいくつも心霊現象や怪奇現象のトリックを見破ってきたわけだけども、今回ばかりはどうしようもないかもしれないんですよ！」

そう言いつつ、彼が再生し始めたのは深夜の高速道路と思しき光景でした。
おそらく、ドライブレコーダーの映像です。
「1．死ねばよかったのに」を経験したキャラクターや、その顛末を聞いたキャラクターは、動画に映ったのは同じ場所だとわかるかもしれません。

「これ！　ここ！　見てください！　クルマの目の前に、ふわっと白い人影がいるんです！」
ホラ山の言うとおり、映像には白い人影が映っています。
直後に急ブレーキの音が響き、続いて「死ねばよかったのに」という音声が入っていました。

「見ました！？　聞こえました！？　これ、本物の怪奇現象じゃないでしょうか！？　それがしでは解決できないかもしれません！しかも、この現象が原因で、ここ数日の事故が急増していると聞きます。すでに実害が出始めているということです！」

彼は興奮しつつも、悔しがっているようです。
憧れのスプーキースクーパーのように、華麗にトリックを見破りたかったのでしょう。

「それに、このあたりには、いくつもの事故を引き起こしてきた都市伝説、〈ハイウェイリリィ〉の噂もあります。もしかしたら、あの白い影こそ〈ハイウェイリリィ〉なのかも……」

動画は高速道路のものから、ホラ山の自撮りに戻ります。
彼は神妙な面持ちで、動画の最後を締める言葉を伝えます。
「ともあれ、それがしは今後も仮称〈ハイウェイリリィ〉の調査を続けます！　有力情報求む！　以上！　すべてのホラーを解き明かせ！　ホラ山ホラーでした！」

はじめに
キャラクター
ルール
世界設定
GM
シナリオ作成
シナリオ

◇描写２

ホラ山の動画が終わったあと、スプーキースクーパーの事務所に静寂が戻ります。

【生まれ】が【怪異】のキャラクターは、すぐにこれが緊急事態だと気付くことができます。

噂になっている〈ハイウェイリリィ〉は、ダッシュババアの跡継ぎである、基本的には無害な怪異です。

つまり、事故を発生させかねない「白い人影」により、偶然事件現場が被ってしまったせいで、無実の怪異の生活が脅かされるかもしれない、たいへんな事態になりつつあります。

これを見過ごしては、スプーキースクーパーの存在意義にかかわります。

怪異たちの平和な生活を守るため、この事件を解決し、すべてがトリックだったということにしちゃいましょう。

ハイウェイリリィとの関係について

キャラクターたちと〈ハイウェイリリィ〉や、先代のダッシュババアは、知り合いでも初対面でもＯＫです。

〈ハイウェイリリィ〉はこのあとに登場しますが、【越境比率】が【人間寄り】のときと【怪異寄り】のときで人格が違い、【人間寄り】のときの人格である〈百合〉は、自分が〈ハイウェイリリィ〉だということも知りません（〈ハイウェイリリィ〉の方は、自分が〈百合〉のときのことを知っています）。

そのため【人間寄り】のときだけ、【怪異寄り】のときだけ知り合いである、といった関係もありえます。

メイン

シナリオの構成

［ハンドアウト①～③］は最初から公開されます。

［ハンドアウト③：走り屋、かく語りき］を［解決］すると、［ハンドアウト④：埋立地の亡霊］が公開されます。

ハンドアウト①：現代のダッシュババア・ハイウェイリリィ

ハンドアウト②：怪奇！　深夜の事故現場！

ハンドアウト③：走り屋、かく語りき

↓

ハンドアウト④：埋立地の亡霊

↓

ハイライトへ

交流可能なＮＰＣ

・〈ホラ山ホラー〉
・〈走り屋のフシミ〉
・〈先代ダッシュババア〉
・〈ハイウェイリリィ〉

〈ハイウェイリリィ〉以外の３人とは、［メイン］開始時より［交流］が可能です。

〈ハイウェイリリィ〉とは［ハンドアウト１：現代のダッシュババア・ハイウェイリリィ］解決後から［交流］できます。

ハンドアウト①:現代のダッシュババア・ハイウェイリリィ

◇描写

〈ハイウェイリリィ〉は、この辺りで暮らす怪異たちにとっては有名な存在です。

彼女の祖母である〈先代ダッシュババア〉は、長らく周辺のまとめ役を務めていました。

〈先代ダッシュババア〉が隠居を決めた際、その跡継ぎとして選ばれたのが〈ハイウェイリリィ〉、【人間寄り】のときには〈百合〉と名乗っている少女でした。

しかし、彼女は【人間寄り】のときには、自分が〈ハイウェイリリィ〉であることを完全に忘れています。

事情を聞くには、彼女を【怪異寄り】に［越境］させなければなりません。

〈百合〉ちゃんのとの接触

〈百合〉ちゃんは【怪異】の【生まれ】ですが、お婆ちゃん――つまり〈先代ダッシュババア〉の教育方針に則り、現在は人間の学校に通っています。

よく色々な動画も見ているようで、スプーキースクーパーのクルーに会うと、嬉しそうに質問攻めにしてきたり、一緒に写真を撮ってほしいとせがんできたりするでしょう。

「お婆ちゃんに知らない人とは話すなって言われてます！　でもプキクパクルーの人は知ってる人だからだいじょーぶです！」

「わ、わ、わー！　プキクパの人たちだ！　取材ですか！？　近くで怪奇現象が起きたりしてるんですかー！？」

「えっ、はいうぇー……？　何ですそれ？」

CHALLENGE

百合ちゃんをハイウェイリリィに越境させる

判定

越境判定（P．３２）

解決条件

〈百合〉ちゃんの【越境比率】を【怪異寄り】にする

【人間ダイス】３個、【怪異ダイス】２個を持っています

未解決

何度でも挑戦できます

解決

無事に〈百合〉ちゃんを［越境］させ、〈ハイウェイリリィ〉と話すことができるようになります

トリガー

以降、〈ハイウェイリリィ〉と［交流］できるようになります

［影響：キャラクター全員は【人間ダイス】を１個獲得する］

マスターシーン

・解決後

〈ハイウェイリリィ〉は、スプーキースクーパーの面々の顔を見ると、緊張の糸が切れたかのようにへにゃへにゃと倒れ込み、半泣きで助けてほしいとお願いしてきます。

一人前のダッシュババアになるべく、日々高速道路を疾走していた彼女ですが、なにか良くない存在の封印が解けたせいで、それが引き起こした怪奇現象がすべて、自分のせいにされつつあることに困っているそうです。

さらに、助けてくれたら、何か動画のネタも提供すると約束してくれました。

ハンドアウト②：怪奇！　深夜の事故現場！

◇描写

怪奇現象が多発する高速道路を調査しにきました。

クルマで件の地点を通過する瞬間、勝手にハンドルが暴れ始め、制御不能になってしまいます！

CHALLENGE

暴れるクルマを乗りこなす

判定

行動判定（P．３０）

解決条件

７より大きな出目を１個提示する

未解決

事故は回避できましたが、この地の何かに呪われます

［影響：この［判定］を行ったキャラクターは【後遺症：消えない不快感】が発生する］

・【後遺症：消えない不快感】について

漠然とした不安がずっと続いて、心がざわざわする状態になる

この［判定］は再挑戦できません

解決

見事にクルマを乗りこなし、危機を脱します

トリガー

怪奇現象を乗り越えたことで、この事件がどの地点で発生するのかがはっきりしました

［影響：この［判定］を［解決］したキャラクターは【怪異ダイス】を１個獲得する］

マスターシーン

解決後

スプーキースクーパーが関与してきたことを理解したのか、その後数日間、怪奇現象は発生しなくなります。

ハンドアウト③：走り屋、かく語りき

◇描写

地元の走り屋がたまり場にしている道の駅。

来た時間が早かったのか、まだそれっぽいクルマは一台しか止まっていません。

しかし、その持ち主はキャラクターたちを見ると、驚いたような表情で駆け寄ってきます。

「お前たち、もしかしてスプーキースクーパーのクルーか！？」

「俺？　俺はフシミ。〈走り屋のフシミ〉って言ったら俺のことよ！」

フシミと名乗った青年はキラキラと目を輝かせて、有名人であるキャラクターたちに事情を尋ねてきます。

しかし、「高速道路に出没する、謎の白い人影」の話になると、急に歯切れが悪くなり、話題を変えようと誤魔化し始めます。

「いや、なんつーのか、婆ちゃんがさ、あの辺には近付くなってずっと言ってたんだよな」

「霊感っつーの？　俺も婆ちゃんもそういうのあってさ、あの辺、すげぇ嫌な感じするんだよなぁ」

「なっ、悪いこと言わねぇから、あの沼には近付くなって！　な！」

――沼？

どうやら、彼は何か重要なことを知っているようです。

どうにか交渉して聞き出しましょう。

CHALLENGE

走り屋から話を聞き出す

判定

行動判定（P．３０）

解決条件

３の出目以下のダイスを１個提示する

未解決

何度でも挑戦できます

解決

フシミから情報を聞き出すことができます

トリガー

［ハンドアウト④：埋立地の亡霊］が公開されます
［影響：キャラクター全員は【人間ダイス】を１個獲得する］

マスターシーン

解決後

〈走り屋のフシミ〉は覚悟を決めたのか、観念したのか、怪奇現象が起きる場所に何があったのかを語ってくれます。

「あの辺りは、高速道路が通る前は沼地があったんだよ。もう何十年どころか、百年以上前に埋め立てられたんだけどな」
「そこは底なし沼で、大人も子どもも関係なく、何人も命を落とした場所らしい」
「そのせいか、新しい被害者を呼び寄せて、取り殺す呪われた場所になっちまったんだとさ」

「な、なぁ、教えたんだから、サインとかもらっていいか！？」

EDGE FLIPPERS

はじめに
キャラクター
ルール
世界設定
GM
シナリオ作成
シナリオ

ハンドアウト④：埋立地の亡霊

◇描写

高速道路の高架下、暗渠（あんきょ）になっているのか地上からでは沼があった痕跡は見られません。

高架下は高いフェンスに覆われており、中へ入ることは難しそうですが、その中心には、ひび割れた大きな岩が置かれているのが見えます。

ひび割れによって、貼られた御札が引き裂かれており、それはつまり、何かの封印が解かれてしまったことを示していました。

CHALLENGE

封印の調査をする

判定

行動判定（P．３０）

解決条件

５か６の出目のダイスを１個提示する

未解決

何度でも挑戦できます

解決

この地に封じられているものや、再封印の方法について調べることができました

トリガー

《キーアイテム：亡霊の鎮魂》を入手します
以降、［ハイライト］へ進めるようになります

マスターシーン

解決後

この場所を封印し、〈埋立地の亡霊〉を鎮めるためには、現在のスプーキースクーパークルーだけの力ではどうにもならないことが判明します。

資料をあたったり、封印の性質を調べたりしたなら、そのキャラクターは、この沼の封印には高名な僧侶や、土地の古い神々が協力した痕跡があることを理解できます。
すぐにそんな者たちの協力を得ることは難しいでしょう。

ですが、この直上、つまり高速道路上で「直接対決」をし、弱体化させた上でなら、今のメンバーだけでも再封印が可能かもしれないと思いつくことができます。

重要なのは「勝てる手段で勝負すること」「そのためのメンバーを集めること」だけです。
すなわち、「事故を起こそうとする〈埋立地の亡霊〉がついて来られない程の速度で、正々堂々、怪奇現象の現場をぶっちぎること。それも一気に大人数で」です。

そうして霊障を及ぼそうとした〈埋立地の亡霊〉を徹底的に混乱させ、封印の儀式をしてしまえば良い。
これが、スプーキースクーパーの導き出した対策方法でした。

最速で、霊障をものともせずに、〈埋立地の亡霊〉をぶっちぎれそうな心当たりに頼るのもいいかもしれません。

EDGE FLIPPERS

はじめに
キャラクター
ルール
世界設定
GM
シナリオ作成
シナリオ

交流

〈ハイウェイリリィ〉と交流する

キャラクターがはじめてこのＮＰＣと［交流］する場合、キャラクターの【怪異ダイス】が１個増える。

・〈先代ダッシュババア〉について聞く

「婆ちゃんはすごい怪異だよ。ご意見番っていうか、みんなのまとめ役っていうか。私じゃまだまだ、遠く及ばない怪異さ」

・この地域の怪異について聞く

「この辺の怪異はみんな穏やかで、平和が一番って連中ばかりだよ。婆ちゃん……〈先代ダッシュババア〉がうまくまとめてて」

・【人間寄り】のときのことを聞く

「人間の私は、自分が怪異だなんて気付いてないんだ。内緒にしておいてくれよ？」

・封印作戦に協力してくれないか聞く

「ババア未満の、この私にできることが……？　わかった、全力で駆け抜ければ、封印の手助けができるんだね？　やってやるさ」

〈ホラ山ホラー〉と交流する

キャラクターがはじめてこのＮＰＣと［交流］する場合、キャラクターの【人間ダイス】が１個増える。

・危ないことに首を突っ込まないように伝える

「むむむ、わかりました。でもそれがし、心にはいつもプキクパ魂が燃えてるっすからね！」

・封印作戦に協力してくれないか聞く

「えっ、それがしも協力……？　いやぁ、プキクパには全力で協力したいのですが……あっ、姉がレディースの総長してるっす！ちょっと協力してもらえないか聞いてみるっすね！」

〈走り屋のフシミ〉と交流する

キャラクターがはじめてこのＮＰＣと［交流］する場合、キャラクターの【人間ダイス】が１個増える。

・霊感について聞く

「昔から、なんか見えるんだよな。幽霊とかさ」

・地元の噂について聞く

「この街の噂話？　ダッシュババアが小さな女の子をおんぶして、すごい速度で駆け抜けていったとか？」

・封印作戦に協力してくれないか聞く

「うぉぉ！　そんな激アツイベント、参加しないはずないぜ！チーム全員に集合かけておくぞ！」

〈先代ダッシュババア〉と交流する

キャラクターがはじめてこのＮＰＣと［交流］する場合、キャラクターの【怪異ダイス】が１個増える。

・雑談しにいく

「孫娘が世話になってるらしいね。ぷき……くぱ？　よくわかんないけど、何かあったら頼っておくれよ。手を貸すからね」

・封印作戦に協力してくれないか聞く

「孫娘のためだ、隠居している場合じゃないか。いいさ、初代ダッシュババアのスピード、見せてやるよ」

・他のババアについて聞く

「日本各地にババアがいるってことは知ってるよ。でもね、物事はシンプルなのが一番いいのさ。ライトニングより、ジャンピングより、ターボより、ジェットより、ダッシュが最速なんだよ」

はじめに
キャラクター
ルール
世界設定
GM
シナリオ作成
シナリオ

ハイライト

ハイライトでとれる行動について

［ハイライト］は次の順番で進行していきます。

・〈埋立地の亡霊〉をスピードでぶっちぎる
・〈埋立地の亡霊〉を封印する
・怪奇現象をトリックだと看破する

未解決になったときの対応

［ハイライトイベント］のいずれかの［判定］で［未解決］になったとき、１回だけ無条件に再挑戦ができます。

ハイライトイベント①：埋立地の亡霊をぶっちぎる

この日、怪奇現象多発地点からもっとも近いサービスエリアに、妙なメンバーが集まっていた。

そこには、スプーキースクーパーのクルーたちと――

〈ハイウェイリリィ〉の協力を得ていた場合

〈ハイウェイリリィ〉の正体は、怪異ではなく最速のバイク乗りだったという逸話をでっち上げる必要もあり、徒歩ではなく、大型バイクにまたがってここに集合しています。

黒い車体に白いライダースーツがよく似合っています。

「婆さんの名を受け継ぐってことは、この辺り一帯の怪異たちのまとめ役になるってことだからね。〈埋立地の亡霊〉なんかに怯えてちゃヘッドは務まらないだろ？」

〈ホラ山ホラー〉の協力を得ていた場合

ホラ山の姉が、数多のカスタムが施されたスポーツカーで駆けつけてくれました。

助手席にいるホラ山が、スプーキースクーパーのクルーに親指を立ててアピールしています。

〈走り屋のフシミ〉の協力を得ていた場合

フシミとその仲間たちが自慢の愛車で駆けつけてくれました。

霊感のある彼は、これがただのツーリングではなく、何らかの怪奇現象に対抗するためのものであると気付いており、ちょっと緊張した様子です。

「任せてくれよ、プキクパのみんな！」

〈先代ダッシュババア〉の協力を得ていた場合

この地域最速の老婆が駆けつけてくれました。

さすがに、人間たちの前で本当の走りを見せるわけにもいかないと機転を利かせ、２シーターミッドシップ、農道のスポーツカーとも称される「フルカスタムの軽トラ」でここに来ています。

「若者が頑張ってるんだ。隠居している場合じゃないだろう？なぁに、本当に危なくなったら、この自慢の健脚で助けに行ってやるさ」

スプーキースクーパークルーの移動手段

ロールプレイをするとき、スプーキースクーパーには撮影用のクルマがあるとか、バイクに乗っているとか、何か好きな移動手段を持っていることにして構いません。

好きなものに乗っちゃいましょう。

シナリオスキル

［シーンプレイヤー］のキャラクターは、以下の【シナリオスキル】を獲得します。

SKILL

最速の仲間たち（さいそくのなかまたち）

条件	［ハイライトイベント①］の［判定］前に使用可能
効果	［交流］でＮＰＣの協力を取り付けていた人数に応じて、［ハイライトイベント①］の［判定］の［解決条件］に必要な出目が以下のものに変更されます。 「１～２名　→　１～５」「３名　→　１～４」 「４名　→　１～３」

HIGHLIGHT EVENT

埋立地の亡霊をぶっちぎれ

判定

都市判定（Ｐ．４８）――速度で振り切れ！

解決条件

１～６の出目、すべてを揃える

未解決

〈埋立地の亡霊〉を振り切ることができず、大事故が発生します

［未解決エンド：スプーキースクーパー大炎上］へ進みます

解決

怪奇現象を引き起こそうと出現した〈埋立地の亡霊〉ですが、次々に駆け抜けていくハイスピードなメンバーに翻弄されてしまいます

トリガー

［マスターシーン］のあと、［ハイライトイベント②：埋立地の亡霊を封印する］へ進みます

マスターシーン

解決後

爆走する一団に翻弄され〈埋立地の亡霊〉は怪奇現象を起こすこともできないくらいに混乱しています。

今なら〈埋立地の亡霊〉に邪魔されず、再封印できそうです。

ハイライトイベント②：埋立地の亡霊を封印する

高速道路上で、怪奇現象を速度で振り切っている最中。

翻弄され、手薄になった封印地点にスプーキースクーパーの面々が集まります。

再封印のためには、割れてしまっている岩を元通りにくっつけて、御札を貼れば大丈夫なはず。

怪異たちの平穏な生活のため、もう一踏ん張りです。

HIGHLIGHT EVENT

封印を再構築する

判定

術式判定（P．４４）――丁寧に修復しよう

解決条件

振ったダイスの中で１個以上、１か２の出目を出す

未解決

封印が失敗してしまいます

［未解決エンド：スプーキースクーパー大炎上］へ進みます

解決

完璧に封印を再構築できました

〈埋立地の亡霊〉が、岩の中に吸い込まれていきます

トリガー

［マスターシーン］のあと、［ハイライトイベント③：怪奇現象をトリックだと看破する］へ進みます

マスターシーン

解決後

〈埋立地の亡霊〉が岩に封印され、辺りの嫌な雰囲気が霧散していきました。

ハイライトイベント③：怪奇現象をトリックだと看破する

スプーキースクーパー最大の仕事が始まります。

噂話の発端となった〈埋立地の亡霊〉は無事に封印できました。

あとは〈ハイウェイリリィ〉がこれらの怪奇現象の原因であるという情報を打ち消す動画を、全世界に向けて配信するだけです。

世間にあふれた「怪異が原因でおかしなことが起きている」という噂に対抗し「すべてはトリックだった」という偽の真実をばらまきましょう。

HIGHLIGHT EVENT

偽情報を拡散する

判定

拮抗判定（P．４６）――バズれ！

ＧＭ側のダイス：【人間ダイス】５個　【怪異ダイス】３個

解決条件

プレイヤー側の誰かが、先に３個以上のゾロ目を揃える

ＧＭとプレイヤーが同時に３個以上のゾロ目を揃えた場合も、解決条件を満たしたことになります

未解決

［未解決エンド：スプーキースクーパー大炎上］へ進みます

解決

完璧な偽情報を流布できました

トリガー

［トゥルーエンド：怪奇現象隠蔽完了！］へ進みます

マスターシーン

解決後

偽情報が急速に拡散されていきます。

これで〈ハイウェイリリィ〉の日常も守られるでしょう。

エンディング

このシナリオでは、次の結末が用意されています。
GMはこの結末を参考にしながら、描写を行ってください。

未解決エンド：スプーキースクーパー大炎上

〈埋立地の亡霊〉に対処できなかったり、偽情報を流せなかったりした結果、今回の動画は大炎上してしまいます。
クレームの嵐に、数々の誹謗中傷と失望のコメントによって、しばらくは活動が難しくなりそうです。

〈ハイウェイリリィ〉は、〈先代ダッシュババア〉のもとで再度修行の日々が始まります。
ほとぼりがさめた頃に、この辺りの怪異のまとめ役として〈埋立地の亡霊〉に真正面から挑み、事態の解決を図るようです。
そのときには、またスプーキースクーパーを頼らせてほしい、とも言ってくれます。

今回、協力してくれたＮＰＣたちは、みんなスプーキースクーパーのクルーが全力であったことを理解してくれています。
この大炎上が収まったら、また怪異たちを守るための活動を再開しましょう。
きっとＮＰＣたちも手伝ってくれるはずです。

トゥルーエンド：怪奇現象隠蔽完了！

その夜、ある峠道を全力で駆け抜ける少女の姿がありました。
〈ハイウェイリリィ〉、またの名を〈ダッシュババア見習い〉。
噂の真相を一目見ようと押し寄せる野次馬は見事にいなくなり、最速を求める〈ハイウェイリリィ〉の生活にも、平穏なひとときが戻ってきました。

スプーキースクーパーは、彼女の正体を「とにかく運転のうまい、地元のバイク乗りがいて、噂に尾ひれ背びれがついた結果、怪異が出るという都市伝説になった」という結末を用意しました。

そのおかげで〈ハイウェイリリィ〉に憧れる、地元の少年少女が増えてしまったりしましたが、彼女はその事実を照れつつも受け入れているようです。

「ありがとな、スプーキースクーパー。あんたらのおかげで、また未来のダッシュババア目指して、最速を極めることができるよ」
そう言ってはにかむ〈ハイウェイリリィ〉は、とてもすがすがしい表情をしていました。

どんなトリックだったことにする？

上記に用意された手法以外でも、「実は〈ハイウェイリリィ〉は作り話だった」とか、「ＣＧ合成したアニメーションだった」とか、どんな理由を付けて解決に導いても構いません。
もしこれだという良いアイデアがあれば、ぜひ〈ハイウェイリリィ〉のためにも提案してあげてください。